

¡Hola amigos!

RとNの Málaga からの手紙

(038号)

皆さんこんにちは。

このページは、私達のスペインでの日々の暮らしを友人・知人の皆さんに知って頂こうと思って開きました。 ですからごく私的なもので、読者のかたも大なり小なり私達をご存知だという想定で作成しています。そのつもりでご覧下さい。

各項の更新は不定期ですが、なるべく毎週末迄に何らかの更新をするつもりです。

更新日を確認の上各項目を選択してください。

2004年03月25日 R & N

目次	更新日
身辺雑記	2004年03月25日
Bar RyN	2004年03月25日
買い物百般	2004年03月25日
エクスカーション	2004年03月25日

ご注意 : 各項目のファイルは更新日から一ヶ月を経過したら削除します。
悪しからず。

* 身辺雑記 *

「春麗ら？」の巻 2004年3月25日 更新

もうずっと前から、暖かい日は日差しの中を歩くと汗ばむほどでしたが、今週に入ってから暖かさはいよいよ春本番です。

日本ではアチコチの桜の便りも頻りでしょう。竹の子の時期も、もうすぐですね。これが私達の味の郷愁ナンバー・ワンです。こればかりは掘りたてでないネー。できればこの時期に里帰りしたいもんだと思っていましたが、案の定タルヘタの出る時期が大幅に遅れたのでこの目論見はオシャカです。

では、来年のこの時期まで待つか……。Nは秋のマツタケの時期でも、と言いますがRは断然竹の子が一番。こればかりは日本の春にしかない味、と思っています。ここの春は ♪春の麗らの隅田川……♪ というようなしっとりソフトな調子はなくいきなりドッカーンと夏のような暑さが押寄せます。昨日今日などはアンダルシア地方は軒並み20度台半ば、私達もとうとうサンダル履きになりました。なにしろ3月半ば迄で藤の花は殆ど終り、いまやもう松葉ボタンですからネー。

ところが、ビスケイ湾に面した地方や北の内陸では春のドカ雪に降り込められているようで、テレビでは雪景色と共に大きな交通事故のニュースも流れていました。

窓の外のハカランダ *jacaranda* (じゃからんだ) は3月初めから落葉が始まりました。春に落葉なんてチョット変ですが、この辺の木はそういうのが案外多いんです。前にも言いましたが特にハカランダの木は不思議です。一度全く裸になって葉が全くないまま花が満開になってその後に葉っぱが出てくる木もあるし、一方、古い葉っぱが全部落ちきらないうちにユズリハのように新しい葉っぱが出て、同時に花芽もつき、古い葉と新しい葉の交代が終わった後で開花が始まるという木もあります。ウチの窓外の例のドジな数珠掛け鳩が、巣づくりを始めては止めてしまう木は後者のパターンです。その鳩たちは今年も食卓前の木で巣造りを始めて、その後、寝室横の木に移ってそちらでも始めたのですが、結局それも挫折、最近姿をみせていません。



左が去年7月数珠掛け鳩が巣造りを始めた頃、右が同じ場所同じ枝の現在・3月24日の様子。コイツはこの木が毎年こうなるということを知らないのでしょうか。ほかにもっと静かな所で鬱蒼と葉が茂った常緑樹がいくらでもあるのに、何が良くてこんな人家に近いスッカラカンになってしまう木を選ぶのか、理解に苦しみます。

巣造りの時期も、去年来たのは7月末だったし、今年は2月初めから。この鳩の生態もどうも今ひとつわかりません。子供の頃の記憶では多くの野鳥は春から初夏にかけてが恋の季節だったと思うんですが、この鳩は野生を失っているのでしょうか？

暖かくなると、アチコチのバルで今まで店の中のテーブルにいた客も外のテラスへ出てきます。こうなると流しや行商人の稼ぎ時です。

この辺の流しのミュージシャンの殆どはどうやらモロッコ人のようです。怪しげな腕時計や壁掛け等の行商人もモロッコや旧スペイン領のウェスタン・サハラからの移民が殆どです。明らかにこれらアフリカ諸国の人間を牛耳る裏の組織の存在が匂います。行商人の持って歩く商品はどれも同じだし、流しの演奏法は曲の崩し方までみんなおんなじです。同じ人間に特訓されてから街に出てくるに違いありません。

一番多い組み合わせはアコーディオンとタンバリン。ごくたまにバイオリンが混じります。タンバリン等なくたって一向に構わないんですが、コイツは集金係、1～2曲やってからタンバリンをひっくり返して小銭をせびって歩きます。

いつも同じ曲ばかりでウンザリです。ベサメ・ムーチョ、シェリト・リンド、ドナウ河の漣。好き嫌いは別として、それぞれの曲が悪い訳ではありませんが、必ず途中で曲を崩してしまうのはホントに気に入りません。たまに普段聞かない曲をやる奴が来るとオオットと思って窓から顔を出しますが、やっぱり途中で崩してきます。



(近所の公園の旗。左からスペイン国旗、EU、アンダルシア州、ベナルマデナ市)
11-M。オンセ・デ・マルソ **once de marzo** あのマドリー(ド)の惨事の日をこう言います。セプテンバー・イレブンと同じ言い方です。あれ以来、テレビでこの言葉を聞かない日はありません。

24日には国王夫妻・王族・各国政府代表など多数が参列して犠牲者の国葬がしめやかに行われました。これまでも既に色々なミサが行われてきました。その都度テレビでもその様子は流していましたが、多くの場合、パブロ・カザルスの「鳥の歌」のチェロ演奏がされていました。大好きな曲の一つですが、葬儀に使われるということはありませんでした。深い悲しみをあらわすには実に相応しい曲だと思います。

11-Mのあと、日本大使館領事部から2回、注意喚起のメールが来ました。曰く。

- 1) テロ事件や不測の事態に巻き込まれる事のないよう、最新の関連情報の入手に努めること。
- 2) テロの標的となる可能性がある施設等の危険な場所にはできる限り近づかない。
- 3) 多数の人が集まる場所をはじめ周囲の状況には警戒するなど安全確保に十分注意すること。

どうです？ 大変アリガタイご注意じゃありませんか。私達もせいぜいこれを参考にして、テロに巻き込まれないよう、そして大使館を煩わす事のないよう努力いたします。ハイ。「安全な」日本にいる皆さんも安全だったのは「昨日まで」と思って上記の注意をよく守って生き延びてください。スーパーやデパートはダメ、人が集まりますからね、電車に乗るなどはもつてのほかですよ。飛行機はともかく・・・。***

* B a r R y N *

「タパス・デ・ラ・カサ・2」の巻 2004年3月25日 更新

今回は我がバルのタパス・メニューの一部です。前号の写真と較べると私達の外食の足が段々鈍くなる理由がお解りいただけると思います。

外食はどここの国でも似たようなモンかも知れませんが、この国の安手の外食は、値段の点では納得できるとしても、油っこい、味が濃い、量が多い、の三重苦で私達はチョッと辟易気味です。最近食が細くなった為か、特にそういう感じがシキリです。

更にドコで食べても野菜が全く少ないことも共通の悩みです。

その点ウチで自分達で作って食べるものはその日の気分、その日の腹具合、そして、ここが肝心ですが、同じ料理でもその日何を呑むか？に合わせて適当にアレンジできるということが可能ですからね。勿論量の調整は自由自在でもあるし。なにより、安上がり、という最大のメリットもあります。そとで食べる事を思えば、相当贅沢な材料を買ってもおつりが来ます。

Nは女性の常で、ソトメシ大好き。Rは(男性の常として?)全く反対。それでも、最初の一年は珍しさも手伝って、正式なコース以外は随分いろんなどこで食べました。だけど、結局上記のような理由で最近殆どソトメシをしなくなりました。時間的にやむをえない場合と、よっぽどソトミが良くて入ってみたい気にさせる店があった場合に限ります。この外見がいいというのは、決して豪華だとか綺麗だとかいうことではなく、いかにもスペインのバルらしい、その辺りの街並みに溶け込んだような、日本では見かけないような店という事です。

前回のボデーガ、ラス・ガラファスの話を娘に聞かせたら、私モ、と張り切って出かけたんですが、ガッカリして帰ってきました。グラスが汚かったんだそうです。それはお気の毒、運が悪かったね、と言うしかありません。普通のスペイン人は多分グラスがぴかぴかかどうかなんて全く気にしないだろうし、こんな、明らかに呑み助相手の薄暗いボデーガではしょうがないんじゃないか？ それがスペイン。



サテ、今日の我がバルのタパス第一弾、ピミエント・パドロン。

何号か前の買物の項でピミエントの話をしてしまいましたが、あの写真の一番左、一番小さいのがこれです。胴の長さ4～5センチ。言うなればスペイン版獅子唐です。

パドロンというのはガリシア地方の町の名前で、何故この町の名前がついているのか解りませんが、産額はこの周辺が多いんでしょうね。その町の街頭ではピミエントを売る屋台店がずらっと並んでいましたし、ガリシア地方へ行けばバルのタパス・メニューには必ずのっています。獅子唐に較べると胴が太く、ちょうど日本のピーマンを小さくしたような形です。緑も濃く、肉厚です。獅子唐と同じように辛いもの辛いものものが混じりですが、どうかすると、とんでもなく辛いものも時々あります。

この辺の店頭には並ぶものは名前どおりパドロンから来たものは少なくバレンシア地方のものかモロッコ産のものが多いです。辛味の度合いは産地にもよるようで、時期や畑の地味によるのかも知れません。このパドロン、スペインの人達はどのような料理に使うのか？ 私達は炒めたものしか食べたことしかありません。そして、多分それがベストなのだろうと思っています。勿論、獅子唐のように網焼きにしてもいけるでしょうが、私達は専ら「炒め」です。油との相性がいいのです。ヘタと種を取って洗ったパドロンの水気を切って塩・コショウと共に小麦粉を少しまぶします。これでカリっとした食感を得られます。後はフライパンに少量のオリーブ油で炒めるだけ、仕上げに醤油を少し回しかけます。辛いのに当るかどうかは半々と思えばいいでしょう。

このパドロン、どういうわけか安物のヒト癖あるビーノを旨くする、という長所があります。辛味の成分が酸味をおさえるのかな？ 貧乏人の強い味方。



次は、ご存知カニカマの磯辺焼。なァーんだと思うでしょうが、これ、純スペイン産という所がミソ。海苔は国籍不明。多分中国製ですが国籍詐称が多くて・・・。

カニカマはどういうわけか日本同様何種類も出回っています。日本にいるとき、ウチでは一正のオホーツクに限ると思っていましたが、ここではクリシア Krissia という銘柄が一番。これがオホーツクに優るとも劣らぬ味・食感で、大満足。

テレビのCMで見ると、スペインの人たちはサラダに混ぜるのが一般的な食べ方のようです。ウチのようにすれば立派にタパスとしてセルベサにもビーノにもヘレスにも通用するのに・・・。誰かに教えてやりたい。

大体、普通のバルで出す、タパスを初めとする簡単料理は殆どが素材の持ち味だけ、あまり工夫というものが感じられません。前のピミエント・パドロンにしても、現地パドロンのバルではただ炒めて出すだけ、ヘタも種もそのまま。何がイカンの？という感じ。食べても旨くないヘタを取ったり、食感を害する種を除いたり、なんていう手間をかけるのは一切ゴメンこうむる、なんです。確かに手間は掛かりますけどね。

カニカマにしたって、ただ乱切りにしてサラダに混ぜるだけ、みたいです。海苔は質を問わなければ、磯辺焼を作るぐらいのは、普通のスーパーにだって売っていて特に高いものではないし、十分使えます。これをバルのタパスで出せば、多分良く売れるでしょうね。利益率も悪くないし、ホントに誰かに教えてやりたい。

何の変哲もないカニカマ磯辺焼を敢えてここに出したのは、日本の味を楽しんでいるヨ、と言う為ではありません。ウチはこれに、例の青いモホをチョビッとつけますとカニカマも大変身、国籍不明の大珍味となります。何国人にもOKの味。**

* 買い物百般 *

「XPの多言語機能」の巻 2004年3月25日 更新

今使っているPCが壊れた場合、スペインでPCを買う上での問題点や、ウィンドウズXPの多言語機能についての疑問点の話をしたら、これまでに何人かの友人が色々調べてくれました。

しかし結果的に、スペインでウィンドウズXP搭載のPCを買って、日本で普通に市販されている日本語用PCのように変身させるということは殆ど不可能、または可能だとしてもOSを初め色々な日本語用ソフトを買い足して、スペイン語のものを削ぎ落とした上、日本語のものをインストールしなおす必要があるらしいと解りました。相当な手間とスペイン語の能力と上積み費用とPCの扱いに関する知識が必要で、この中で手のうちにあるのは手間暇だけですからどうにもなりません。だからスペインでPCを買う事は出来ない、これは初めから殆ど覚悟していた通りでした。

第二の手段、ロンドンで英語のPCを買えばスペイン語のものをいじりまわすよりは少しはマシになります。ロンドンなら日本語OSをはじめ各種日本語ソフトが手に入ることも私設ヘルプ・デスクをしてくれている友達からの情報で解りました。

しかし、これがまた安くないのです。それに加えてデスクトップPCなら、英語環境のパーツと他の言語のパーツを組み合わせたたりする事も比較的やりやすいけれど、ノート型のものは、生まれのままで使う事が望ましい、とうことも聞きました。

第三の手段はロンドンで日本製の日本語環境のPCを買う、ということです。当然、日本での価格よりは高いでしょうが、日本往復の航空運賃を考えれば少々割高でも仕方ありません。日本の各メーカーはロンドンに支店や出張所を置いている会社も多く、ロンドン支店独自のHPを開いている所も少なくありません。

そこで、あちこちのサイトを検索してみました。初めは日本語のページが出てきても、肝心の機種選定のページまで進むと全てが英語になってしまうのです。要するにそこから先はもう日本語PCの話ではなくなり、日本製の英語環境のPCの話です。



(私達の住むロベルト・オリード通りの
のタイル標識。どうやらオリード氏は
お医者様だったようですね)

結局、ロンドンで日本語PCを売りますよ、という話は見えてきません。イギリスにはかなりの数の日本人がいるはずですが、ビジネスで来てる人はいずれ時が過ぎれば日本に帰る、その前にも比較的頻繁に日本へ行く機会があって、いつでも日本の物を買ってこれるから、日本語PCをロンドンで、という需要がないんでしょうね。だから当然売るほうにも熱はないわけです。

我がヘルプ・デスク君は日本で買って送ってあげる、とまで言ってくれていますが、これがまた難問中の難問で、無事に着く可能性が果たして何パーセントあるか??? とどのつまりは、やはり日本へ帰ったとき、日本で買ってくるのが一番という所へ落ち着いたようです。もう、そうするしかないと思っています。

ウインドウズXPの多言語機能については去年の春以来一年間、機会あるごとにいろんな人に聞いてきましたしヘルプ・デスク君にも大量の情報を貰いました。しかし解った事は多言語機能と云ったってそのまま右から左に使用言語を変えられるなどという便利さはないらしいということです。マイクロソフト社のサイトも色々見てみましたがはっきりした事は解りませんでした。自分が既にXPを持っていて、サイトで解説している事をいろいろ試してみれば解決に至るのかも知れませんが、現在XPがないのだからどうにもなりません。

娘の会社はコンピューター・ソフトなどの翻訳が本業ですから、この機能については一番敏感な筈ですが、そこでも、アア、それはこうすればいいんだよ、と簡単に回答をもらえないところを見ると、結局多言語機能と云ったって実際はあまり役に立たないんじゃないのか? 一時的に他言語の入力をするだけなら、この古い98SEでも可能です。実はそこからあまり進んでいないんじゃないのかという気がします。



(駅前遊歩道にあるロベルト・オリド氏の胸像。村の感謝を、とありますから何か村に大きな貢献をした人なんでしょうね。スペイン版「赤ひげ」か?)

新たなPC購入についてモタモタと調べている間に、Rの電子辞書が一足先に壊れてしまいました。これはNのものと同一時期スペインに来る直前に買ったもので、約一年半の短命でした。その前のものは同じメーカーの二世代前のものでしたが随分長持ちしました。多分7~8年使ったのではないかと思います。Rのものはそのメーカーの最上級器、Nのものもやはり同メーカーの姉妹版でしたが値段の高いほうが先にイカレてしまいました。機械モノには付きまとう当たり外れです。

辞書引き機能は全く正常ですが液晶画面が異常です。ここではどうせ修理を頼む所もないので自分でバラしてみました。ノート・パソコンと同じように蓋の裏がディスプレイになっています。内部を見て解ったことは本体と蓋部分を繋ぐ帯状のプラスチック・コードが不自然に取り付けてありました。蓋を開けたり閉めたりする度にヒンジ部分でコードが擦れて一部が断線したようです。一年半は正常に機能したのですから、当然製品検査もパスしたのですが、組み立てた当人はこうすりゃこうなるという事は解っていた筈です。でもやり直す手間を省いちゃった。製品検査に引っかからなけりゃイヤ、というわけ。良心の欠落。Made in C でしたネー、やっぱり。***

エクスカーション

「うらやま散策」の巻 2004年3月25日 更新

創刊号で裏山のロープウェイに乗った話をしましたが、憶えておいででしょうか。あのロープウェイはあれっきり乗っていません。あの山上駅からの眺めはナカナカのもので、真冬の視界のいい日に行けばアフリカも一望なのですが、料金が馬鹿になりません。その料金でジブラルタルに行ってお釣りが来ちゃうんです。高いところへ上がるのはやっぱり高い……。ついビーノなら何本と考えてしまいます。

この辺の町歩きにも些か飽きてきました。もう歩いてないところはない位歩き回ったんです。新しい発見も段々少なくなり運動のためだけに同じ道を歩く日々が多くなりました。そこで最近「山歩き」というほどでもありませんが山側の小高い所を歩くことが多くなりました。そのほうが車も人も少ないし運動量も大きくなります。

同じ一万歩でも、街中の舗道より砂利混じりの山道のほうが良いに決まっています。人里を外れてしまうまで歩くのはかなりホネですが、そういうところにはもはやバルもないので喉が渇いてもカーニャ一杯の誘惑もありません。

この辺で一番高いところは当然ロープウェイの山上駅ですが、そこまで行かなくてもいい景色のところは沢山あります。ところがそういう景色のいいところはすぐ住宅開発で買い占められてしまうんです。

私達がここへ来てまだ一年半にもならないのにそういう「いいところ」が大分少なくなりました。何しろこの辺の開発ラッシュは空恐ろしいくらいで、バブル崩壊前の日本の姿が彷彿とします。いや、それ以上カナ。

売りつける相手は殆ど外国人を目当てですから日常生活の便利度は無視、景色のいいこと、それが全て。だから、当然の結果として住宅群は高いところ高いところへ伸びて行きます。そしてヒトが建てた前が少しでも開いているとすかさず割り込みです。上へ上へ、且つ前へ前へです。上へ且つ前へというのは矛盾するでしょう？ そう、だから、上に建っている建物のすぐ前の崖の途中にも建てるんです。恐ろしい。



これは時々行く丘の上から真南を見たところ。青い地中海が目の前に広がります。左隅は豪華ヨットが並ぶマリーナ、右手のほうにかなり大型のクルーザーがセールをひろげています。このショットには建築用クレーンは見えません。それが入らないように苦労してこういうアングルを見つけたのです。この部分はこの限界でも比較的早い時期に開発が進んだのでしょう。もう殆ど新たな開発の余地がないからクレーンが少ないのですが、これでも肉眼でよく見ると皆無というわけではありません。なぜなら、古い戸建て住宅のいくつかを買い上げて小さい規模のピソ(マンション)を造るということも盛んにやられています。日本でもそういう時期がありましたねー。地上げ屋、なんて言葉、日本ではもう廃れたのでしょうが、それに似たことはここでもやられているのでしょうか？ いずれ供給過剰になる日がくるのは解りきったことなのに、その前に儲けてしまおうと先を争って開発を急いでいるように思えてなりません。EU各国からの客をターゲットのアサましい商売です。しかし、同じEUの国々でも南北の物価と所得の格差は大きく、この差が縮まらない限り、北の国から南への移住または長期滞在客の流れは続きます。だから、飽和状態に達するのはまだまだ先の事だと楽観しているのかもしれませんが。実際、この大きな流れはテロの一つや二つあっても、都市部での強盗・カップライが横行しても止まらないのでしょう。



上は住宅開発が盛んに行われている地域。このクレーン群を見るとウンザリです。
下は反対側、ロープウェイが登って行く山を見たところ。この辺の山はこのように木が殆どありません。雨が少ないからというより、土が少なく岩盤ばかりだからです。確かに地震には強そうな地面です。しかし山は青く水は・・・、というわけにはいきません。青い水がとうとうと流れる川もこの辺では見ないものの一つです。それはもっと西、またはもっと北の地方に行かないとダメなんでしょう。





上ははるか東の方、雪を被っているのはシエラ・ネバダの西の端。本体は右端の部分雲に隠れています。住宅工事現場に目を瞑れば海だけでなく山の景色も悪くありません。下は反対側、南西の方角。冬場、視界がいい日にはこの白い雲の下辺りにはアフリカ大陸が広がります。この日みたいな春うららではそれほどの視界は望めません。下に見える原っぱは二枚目の写真と同じところですが、住宅開発の波がすぐそこまで来て、元はオリーブ畑だったのに、もう殆ど木もなくなっています。こうしてどんどん自然がなくなっています。その片棒を担いでいるのは外ならぬ私達外国人です。





丘の頂上にはぽつんと小さな農家があり、周りは牧草地になっています。そこにポニーが一頭つながれていました。ヤアかわいいポニーだねと暫くみていると、どうも様子に変なんですね。コイツ自分で綱を石に巻きつけて引っ張ってしまい、綱が石の下に挟まって身動きできなくなっているんです。農家は留守らしくヒソソリしてます。ソンじゃと、二人でコラショっとこの大きな石を転がして綱を解放してやりました。コイツよっぽど嬉しかったんでしょうね、鼻面をグイグイ押し付けてきました。「アングト」なんんでしょうね。かなり賢いポニーだったんだね。それにしてもドジってシマッタ、とチョッと恥ずかしかったのかも……。海岸でジー様バー様ばかり見ているより、これからもなるべく山へ行こうと思います。暑くなる迄は……。***
